

朝倉市

松末復興かわら版

復興案 全体像始めて見える

12/2日曜19時より杷木町生涯学習センターからくゆう館で朝倉市松末地区復興推進協議会の予備会が開かれ、同委員11名をはじめ関係者12名と九州大学支援団の教員2名、学生9名が出席し、松末地区11集落の復興計画の全貌が初めて明らかになった。

朝倉市による復興計画策定委員会には策定委員会と専門部会があり、策定委員会は住民代表・各種団体・学識経験者等で構成される。また専門部会は①住まいと暮らしの再建②安全な地域づくり③産業・経済復興の3つの専門部会を設置して復興計画の検討を行う。

この策定委員会に松末代表として、松末地区復興推進協議会 伊藤睦人会長ほかが入っているが、この会合は朝倉市の予定では10/7と12/18に実施されることになっている。

しかし松末は被災範囲が広く2回の会合で住民意見の集約が困難と予想されたため、各集落ごとの話し合いを持ち、それを今回の予備会合で集約するなど、他の地区より丁寧な手順となっている。

今回は意見集約の初会合であったが、集落ごとの大きな相違は見られず、お互いなるさとの再起を確認しあう場となった。また、保育所の存続・蜜公園の設置・遊休地への植樹・桜の山つくり・復興宝くじ発行・被災記念館設置・など、ふるさと松末の復興と新たな活動を培う提案もなされた。

2部では九大の流域システム工学研究室の学生さんによる集落ごとの情報誌「復興新聞」が配布され説明に活用された。



朝倉市松末地区には11の集落があり、7/5の九州北部豪雨では家屋の79%が被災した。

小学生の提案

全校児童27名が秋の文化祭で発表したものを大好き松末、復活ゆめプロジェクトとして松末地区協議会に再提案した。その内容は①松末小学校舎を公園や公共施設として活用・②階段は遊具の貸し出しなど・③階段は卓球と休息スペース・④階段を忘れないための記念碑は松末コミュニティと地域交流スペース⑤安心を代表6名で行った。

山集落からの案

各集落共に地元に残る強い意志が感じられる案が出揃った。また宅地の移転場所として小学校周辺の山に造成する案が4集落から出され、これが実現するとこの3月で閉校する小学校周辺は新たな地域拠点として復活し、昭和30年ごろまでの賑わいが期待される。

6戸15名で佐藤達美区長。10/15と11/19の話し合い①まだ電気がきていない。年末までに来ると言われている。②巨大な砂防ダム計画があり、住民から疑問が出ている。③今後安全が確保されれば現地再建したい。現在2軒は残っている。

乙石

14戸30名で井手廣喜区長。10/15と11/19の話し合い①葉山神社への参道も復旧させてほしい。②河道は昔の風景を基本に復旧を希望。③地名は残してほしい。④今日12/2から電気が来た。⑤4軒ほど電気がくれば家に戻る予定。⑥河道曲部からの集落への濁流を防ぐ石垣(水はね)を農地内に設置したい。⑦残った住宅も新築する場合は宅地は高上げし将来に備えたい。

中村

19戸38名で井手武志区長。11/5と11/25の話し合いの結果①乙石川と赤谷川の合流地点で今後不安がある。②子供たちが遊べる川にしてほしい。③サイレン山に復興住宅を作りたい。④避難道が必要。⑤山に桜の木を植えてほしい。⑥乙石川に遊砂地をつくることは問題がありそう。この件に関して九大の島谷教授からは、高さ6mの遊砂地を乗り越えた場合にこの直撃するのでは不安あり国交省に言っています。との意見がでる。

石詰

16戸53名で小嶋喜治区長。10/15、10/22と11/19の話し合いの結果①山城跡裏を造成して3集落の集団移転地とする。②橋の数を7から3に減らし流木による洪水を避ける。③避難路を森林組合付近まで通すと生活道路としても活用される。④乙石川は高低差が激しいので今回の土砂を利用して圃場整備したい。⑤河川は西側の山すそ沿いに復旧。⑥更地には花を植えて癒しの場とした。

真竹

23戸81名で高倉敏弘区長。10/29と11/19の話し合いの結果より①国に砂防ダムを希望している。②集会所が使えないので探している所があり蜜公園として保全したい。③サイレン山を避難所と宅地として造成させてほしい。④16戸が残っている。

瀬ノ口

18戸49名で小川賢一区長。10/29の話し合いの結果①砂防ダムを増設してほしい。②道路を拡幅してほしい。③小学校東側の山を造成して公営住宅を建設してほしい。④集落内に安全な避難場所がほしい。⑤残った家屋も裏山が崩れそう。⑥農地の復旧については意見が集約できていない。⑦工事で使っている農地がどうなるのか不安。⑧浄化槽が使えない。⑨道と河川が宅地より高く排水できない。

小河内

28戸79名山口幸雄区長。31戸70名梶原一徳区長。10/29の話し合いの結果①10戸が生活しています。②市営住宅17戸は更地になっていきます。③ダンブが行き来するので道を拡幅してほしい。④橋を架けてほしい。⑤赤谷川からの水路を直してほしい。⑥河川改修が終わらないと復興が始まらないのではと大勢です。

赤谷

21戸63名三木正人区長。24戸60名伊藤哲区長より①要望として今後には想定外を考慮した堅固な工事を要望。②流木は管理を地権者、国、市で考えてもらいたい。③安全な帰宅の実現。仮設住宅期限の2年間で帰宅できないのではないかと心配しています。④倒壊流出した家屋が3軒ある。再建への支援。⑤資料館の設置し、今後の住民のよりにとりたい。



真竹集落の案ではサイレン山を造成し防災移転する。

本村

25戸70名で井上昭明区長。10/21と11/3の話し合い①暮らしの安心安全が大事。②復興住宅の敷地内に老人ホームを作りたい。③水道が松末小までしか復旧していない。④本村に戻りたい。⑤小河川も川幅を広くする。⑥県道52号を嵩上げと拡幅を希望。⑦現在の避難場所をより広くしたい。⑧防災公民館やヘリポートの必要性を感じる。

立

31戸70名梶原一徳区長。10/29の話し合いの結果①10戸が生活しています。②市営住宅17戸は更地になっていきます。③ダンブが行き来するので道を拡幅してほしい。④橋を架けてほしい。⑤赤谷川からの水路を直してほしい。⑥河川改修が終わらないと復興が始まらないのではと大勢です。

正信

21戸63名三木正人区長。24戸60名伊藤哲区長より①要望として今後には想定外を考慮した堅固な工事を要望。②流木は管理を地権者、国、市で考えてもらいたい。③安全な帰宅の実現。仮設住宅期限の2年間で帰宅できないのではないかと心配しています。④倒壊流出した家屋が3軒ある。再建への支援。⑤資料館の設置し、今後の住民のよりにとりたい。

乙石川復興新聞

復旧に向けた集落協議会を開催

乙石・中村・石詰区合同 復興集まりでの話し合いの内容

学生支援により各集落ごとの新聞が作成された。

伊藤会長より 小河内からの保育所再開に触れ、保護者のみなさんと松末コミュニティで9月に申し入れをし、10月末に再度申し入れし、朝倉市から1/4から松末保育所を再開するとのこと。市は20人以下は合併させる方針で、来年度は園児数をみて再度相談するとのこと。松末はアットホームな自然を大事にする保育で、地区外からの通園者もいた。お孫さんや親類に宣伝してください